

# 【国語科・小6・「やまなし」】①

## 育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 比喩や反復、対比などの表現の工夫に気付くことができる。 (1)ク
- (思・判・表等) 人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 C工
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 C才
- (学びに向かう力等) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度。

## ICT活用のポイント

- 自分の考えを情報共有機能で共有することで、読みとった内容を多面的に捉えさせる。
- 前時の学習を記録しておき導入の場面で提示することで、単位時間の繋がりを意識させる。

【単元の課題】表現や構成の工夫に着目して読み、自分の考えをまとめよう。

大型電子装置に前時の板書を映し、前時を振り返る

情報共有機能で考えを共有する

グループで考えを深める

自分の考えを再考する

## 事例の概要

- ・前時の板書の写真を**大型電子装置で提示**し、前時の学習を想起させる。
- ・「なぜ作者は『やまなし』を題名にしたのか、自分の考えをまとめよう」という、本時のめあてを設定する。
- ・児童は、前時までの学習を基に各自で考え、自分の考えをノートに書く。ノートを**ICT端末で撮影し、授業支援ソフトに提出してクラス全体で共有**する。
- ・児童は、共有した考えの中で、自分の考えと近い人を探してグループになり、「なぜそう考えたのか」「これまで学習してきた内容の、どこに着目したか」等を話し合い、考えを深めたり、確かなものにしたたりする。
- ・グループで話し合ったことを代表が発表し、クラス全体で共有する。
- ・児童は、自分の考えをまとめ直し、再度**授業支援ソフトに提出**する。送ったものについては、次時に共有する。

# 【小学校・6年・国語科・「やまなし」②】

## 【事例におけるICT活用の場面①】



## 【事例におけるICT活用の場面②】



### ○学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係

- ・授業支援ソフトに提出された各自の考えを確認する。
- ・ICT端末で確認した考えの中で、自分と似た考えの人を探し、話し合いをする。

### ○ICT端末を効果的に活用するためのポイント

ただ共有するだけではなく、次の点が大切。

- ①例えば、「自分の意見との違いを考えなさい」のように、着目すべき点を教師が焦点化する。
- ②「なぜそう考えたの」「具体的にどういうこと」等、教師が適宜問い返しをして、児童の考えを深める。

### ○児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット

- ・前時のふり返りが容易になる→教師用のICT端末で授業の最後に板書を撮影しておき、必要に応じて大型電子提示装置に映す。
- ・クラス全員の考えが即時に共有できる→ノートに自分の考えを書いたら、各自のICT端末でノートを撮影し、授業支援ソフトに提出する。

### 【活用したソフトや機能】

- ・ICT端末の撮影機能
- ・授業支援ソフトの情報共有機能
- ・大型提示装置